

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

リスク評価（一次）評価Ⅰの結果（平成24年7月25日公表）を踏まえ、平成24年度より下表の全18物質を「評価Ⅱ着手」とした（現在「評価Ⅱ段階継続中」）。これらについて現時点で精査中の暴露情報を別添1～別添18に示す。

表 平成24年度でのリスク評価（一次）評価Ⅰにより「評価Ⅱ着手」となった物質の一覧（現在「評価Ⅱ段階継続中」）

優先評価化学物質 通し番号	官報公示名称	
2	ヒドラジン	別添1
4	1, 3-ブタジエン	別添2
7	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	別添3
12	1, 2-ジクロロプロパン	別添4
13	クロロエチレン（別名塩化ビニル）	別添5
14	1, 3-ジクロロプロペン（別名D-D）	別添6
19	エチレンオキシド	別添7
20	1, 2-エポキシプロパン（別名酸化プロピレン）	別添8
25	ホルムアルデヒド	別添9
33	アクリル酸n-ブチル	別添10
39	アクリロニトリル	別添11
45	ベンゼン	別添12
48	イソプロピルベンゼン（別名α-メチルスチレン）	別添13
53	p-ジクロロベンゼン	別添14
57	o-トルイジン	別添15
64	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール	別添16
71	[3-(2-エチルヘキシルオキシ)プロピルアミン]トリフェニルホウ素(III)	別添17
75	4, 4'-（プロパン-2, 2-ジイル）ジフェノール（別名4, 4'-イソプロピリデンジフェノール又はビスフェノールA）	別添18

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	2				
官報公示名称	ヒドラジン				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	302-01-2				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	32.05	融点	℃	2
沸点	℃	114	蒸気圧	Pa	9.0×10^2
水溶解度	mg/L	1.0×10^5	1-オクタールと水との間の分配係数 (logPow)	-	-0.16
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	1.1×10^{-3}	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	8
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	316			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	0.23	水域	日	7
土壌	日	7	底質	日	28
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	8,056	11,184	11,308	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-333						
政令名称		ヒドラジン						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	17	15	20				
届出移動量	トン/年	384	554	459				
届出外排出量	トン/年	150	126	111				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	4	届出_水域	トン/年	15	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	4	届出_廃棄	トン/年	455
推計_すそ切り	トン/年	111	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「水処理剤として塩酸ヒドラジンのような誘導體で使用された場合は、事実上ヒドラジンとして環境中へ排出される可能性がある。また、農薬として、玉ねぎ、ニンニク、ジャガイモの発芽防止に適用される植物成長調整剤中の不純物としてのヒドラジンが農作物に含有される可能性がある。また、ヒドラジンは、エポキシ樹脂粉体塗料の硬化剤として水道施設や給水装置の内面塗装に使用されており、水道水へのヒドラジンの溶出の可能性がある。</p> <p>その他の例として、たばこの煙が指摘されている (Liu et al., 1974) ほか、アソトバクターによる窒素固定からの生成があると報告されている (IARC, 1972)。</p> <p>また、Bayer AG によると、ヒドラジンを含む蒸気で処理された製品中にヒドラジンが残存する可能性はほとんどなく、もし蒸気のなかにヒドラジンが残っていても、紙や木材、繊維などの表面で起こる触媒作用のもとでは、空気中の酸素によってヒドラジンが分解されるとしている (Bayer AG, 1993)。</p> <p>しかし、これらについての詳細な情報は、調査した範囲では入手できなかった。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価 I における値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	4				
官報公示名称	1, 3-ブタジエン				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	106-99-0				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	54.09	融点	℃	-108.9
沸点	℃	-4	蒸気圧	Pa	2.4×10^5
水溶解度	mg/L	735	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	1.93
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	7.4×10^3	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	52
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3.2			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の) 分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	0.32	水域	日	28
土壌	日	28	底質	日	112
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	1,224,370	1,124,721	1,058,190	
主な用途 (上位3つ)(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-351						
政令名称		1, 3-ブタジエン						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	102	100	92				
届出移動量	トン/年	1	1	58				
届出外排出量	トン/年	2,841	2,341	1,986				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	90	届出_水域	トン/年	2	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	58
推計_すそ切り	トン/年	0	推計_非対象業種	トン/年	33	推計_家庭	トン/年	72
推計_移動体	トン/年	1,881						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「反射型石油ストーブの点火時と消火時、特に点火時に多く排出されるという報告がある(赤松ら, 2001)。アメリカでは、野焼きや焼き畑及び森林火災から発生するとされている(U.S.EPA, 1996)が、国内におけるこれらの詳細についての情報は、調査した範囲内では入手できなかった。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価Ⅰにおける値でありデータの精査により今後変更の可能性はある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の4倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第1位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	7				
官報公示名称	シクロロメタン（別名塩化メチレン）				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	75-09-2				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	84.93	融点	℃	-95.2
沸点	℃	40	蒸気圧	Pa	4.5×10^4
水溶解度	mg/L	1.6×10^4	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	1.3
ヘンリー係数	Pa·m ³ /mol	2.4×10^2	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	18
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	29			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	191	水域	日	28
土壌	日	28	底質	日	112
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	48,701	53,225	57,645	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-186						
政令名称		ジクロロメタン（別名塩化メチレン）						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	13,530	14,192	13,556				
届出移動量	トン/年	8,400	7,817	7,149				
届出外排出量	トン/年	1,289	1,947	1,993				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	13,549	届出_水域	トン/年	7	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	7,148
推計_すそ切り	トン/年	1,993	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の4倍と仮定した。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第1位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	12				
官報公示名称	1, 2-ジクロロプロパン				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	78-87-5				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	112.99	融点	℃	-100
沸点	℃	96	蒸気圧	Pa	4.8×10^3
水溶解度	mg/L	2.6×10^3	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	2
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	2.3×10^2	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	68
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	26.9	水域	日	1289
土壌	日	1289	底質	日	5156
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	1,929	1,806	1,406	
主な用途 (上位3つ)(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-178						
政令名称		1, 2-ジクロロプロパン						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	106	70	67				
届出移動量	トン/年	481	920	906				
届出外排出量	トン/年	45	77	72				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	67	届出_水域	トン/年	0	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	906
推計_すそ切り	トン/年	72	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「海外では土壌害虫防除を目的に播種前・植付前の畑土壤中に注入して使用される 1,3-ジクロロプロペン(D-D 剤)に一部含まれる 1,2-ジクロロプロパンが、土壌から地下水に流出する危険性があると報告されている(Krijgsheld et al., 1986)。一方、1,2-ジクロロプロパンを含む D-D 剤中を土壌に散布した場合に、土壌中では分解せず、揮散して大気へ移動するという報告がある(Roberts et al., 1975)</p> <p>日本における D-D 剤の使用は、1995 年頃まで 10,000 トン/年以上であったが、現在は粒状で取り扱いが容易でかつ人体及び環境への影響が小さいとされるホスチアゼートに切り替わりつつある(SRI International, 2001)。別途調査したところ、現在国内で流通している D-D 剤中には 1,2-ジクロロプロパンはほとんど含まれないということから、本評価書においては D-D 剤使用による 1,2-ジクロロプロパンの環境中への排出については考慮しない。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価 I における値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	13				
官報公示名称	クロロエチレン（別名塩化ビニル）				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	75-01-4				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	62.5	融点	℃	-154
沸点	℃	-14	蒸気圧	Pa	3.3×10^5
水溶解度	mg/L	1.1×10^3	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	1.52
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	2.8×10^3	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	56
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	77	水域	日	180
土壌	日	180	底質	日	720
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	2,836,200	2,306,602	1,814,649	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-94						
政令名称		クロロエチレン（別名塩化ビニル）						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	252	231	151				
届出移動量	トン/年	71	81	85				
届出外排出量	トン/年	2	2	1				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	146	届出_水域	トン/年	5	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	1	届出_廃棄	トン/年	84
推計_すそ切り	トン/年	1	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「たばこの煙、塩素化炭化水素を溶媒として使用している製品を廃棄後、埋立処分した場合の処分場からの浸出があると報告されている(PCS, 1999)。</p> <p>Hoffmann らによると、たばこの煙に含まれるクロロエチレンの量は、たばこ中の塩化物の含有量に関係しており、たばこで 1.3~16 ng/本、葉巻で 14~27 ng/本と報告されている(Hoffmann et al., 1976)。</p> <p>そこで、たばこからの最大排出量 16 ng/本に 2001 年度の国内たばこ販売量 3,193 億本(日本たばこ産業株式会社, 2004)を乗じると年間排出量は約 5 kg と概算される。</p> <p>また、Lahl らの推計によると、アメリカ全土の埋立処分場から年間 60~33,000 トンのクロロエチレンが排出されている(Lahl et al., 1991)。ただし、その浸出率は処分場の条件によって異なる(PCS, 1999)。</p> <p>クロロエチレンは、一時期大量に洗浄溶剤として使用され、地下水汚染で問題となったトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンから環境中で非意図的に生成したジクロロエチレンが分解して生成する可能性も示唆されている(平田, 1996)。</p> <p>その他、塩化ビニル樹脂の製品中にモノマーとして残存したクロロエチレンを吸入する可能性も指摘されている(OECD, 2001)。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価 I における値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	14				
官報公示名称	1, 3-ジクロロプロペン（別名D-D）				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	542-75-6 他				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	110.97	融点	℃	-66
沸点	℃	108	蒸気圧	Pa	2.8×10^3
水溶解度	mg/L	2.6×10^3	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	2.02
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	3.0×10^2	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	32
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	7			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	3.35	水域	日	11.3
土壌	日	11.3	底質	日	データなし
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	6,241	513	327	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-179						
政令名称		1, 3-ジクロロプロペン (別名D-D)						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	6	5	5				
届出移動量	トン/年	83	450	450				
届出外排出量	トン/年	9,624	8,854	8,660				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	4	届出_水域	トン/年	0	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	450
推計_すそ切り	トン/年	-	推計_非対象業種	トン/年	8,660	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	19				
官報公示名称	エチレンオキシド				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	75-21-8				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	44.05	融点	℃	-112
沸点	℃	11	蒸気圧	Pa	1.4×10 ⁵
水溶解度	mg/L	9.7×10 ⁴	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	-0.22
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	14	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	9
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	382	水域	日	11.9
土壌	日	11.9	底質	日	データなし
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	276,475	300,593	287,979	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-56						
政令名称		エチレンオキシド						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	222	241	222				
届出移動量	トン/年	108	93	81				
届出外排出量	トン/年	180	135	100				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	195	届出_水域	トン/年	27	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	39	届出_廃棄	トン/年	43
推計_すそ切り	トン/年	100	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「化石燃料の燃焼によって生成することが指摘されている(US EPA, 1984)。また、たばこの煙の中にも含まれる(Howard, 1989)。ただし、これらの排出源は無視し得るものと考えられる(US EPA, 1984)。界面活性剤の原料として使用されたエチレンオキシドが界面活性剤とともに排出することがあるが、その量は少ないと考えられる(IPCS, 2003)。</p> <p>また、東京都環境科学研究所によると、エチレンオキシドは、医療用具の滅菌に使用されており、滅菌器から大気又は下水へ排出される(樋口ら, 2003)。なお、2001 年度には推計されていないが、2002 年度 PRTR データでは、エチレンオキシドの届出外排出量のうち「医薬品に係わる排出量」として年間 185 トン排出されると推計されている(経済産業省, 環境省, 2004)。</p> <p>自然発生源としては、ある種の植物では、天然の成長調整剤であるエチレンが酸化してエチレンオキシドが生成する(Abeles and Dunn, 1985)。また、ある種の微生物の異化作用によっても生成する(De Bont and Albers, 1976)。その他、浸水泥(Jackson et al., 1978; Smith and Jackson, 1974)、肥料及び下水の汚泥(Wong et al., 1983)からの生成がありうる。ただし、これら自然発生源からの排出量はわずかと考えられる(IPCS, 2003)。その他にも、環境中でエチレンと有機過酸化物との反応あるいはアルキル過酸化物の分解を通して光化学的に生成することが報告されている(Bogyo et al., 1980; Radian Corporation, 1986)。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価 I における値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	20				
官報公示名称	1, 2-エポキシプロパン（別名酸化プロピレン）				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	75-56-9				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	58.08	融点	℃	-112
沸点	℃	34	蒸気圧	Pa	6.0×10^4
水溶解度	mg/L	4.0×10^5	1-オクタールと水との間の分配係数 (logPow)	-	0.06
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	12.4	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	11
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	19.3	水域	日	3340
土壌	日	データなし	底質	日	データなし
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	460,598	436,097	401,051	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-68						
政令名称		1, 2-エポキシプロパン (別名酸化プロピレン)						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	114	91	98				
届出移動量	トン/年	88	72	72				
届出外排出量	トン/年	0	0	0				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	86	届出_水域	トン/年	12	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	54	届出_廃棄	トン/年	18
推計_すそ切り	トン/年	0	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「海外では、殺菌剤や農薬から大気へ排出される可能性がある」と報告されている。また、車の排気ガスから大気へ排出されるという報告もある(GDCh BUA, 1992)。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	25				
官報公示名称	ホルムアルデヒド				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	50-00-0				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	30.03	融点	℃	-92
沸点	℃	-19	蒸気圧	Pa	3.7×10^5
水溶解度	mg/L	3.3×10^5	1-オクタールと水との間の分配係数 (logPow)	-	0.35
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	3.4×10^{-2}	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	25
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	0.25	水域	日	7
土壌	日	7	底質	日	28
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	119,139	114,078	107,469	
主な用途 (上位3つ)(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-411						
政令名称		ホルムアルデヒド						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	246	388	377				
届出移動量	トン/年	764	709	732				
届出外排出量	トン/年	8,878	7,634	6,834				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	328	届出_水域	トン/年	48	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	72	届出_廃棄	トン/年	660
推計_すそ切り	トン/年	732	推計_非対象業種	トン/年	125	推計_家庭	トン/年	88
推計_移動体	トン/年	5,889						
<p>排出等に係るその他の情報：※7 「自然発生源の中では、炭化水素の OH ラジカルやオゾンとの酸化による生成や植物の生長に伴いテルペンやイソプレンを排出する際に中間生成すること、また微生物による分解の際に生成するとの報告 (Calvert, 1980; Eberhardt and Sieburth, 1985; Hellebust, 1974; Lowe et al., 1981; Nuccio et al., 1995; Yamada and Matsui, 1992; Zimmermann et al., 1978) があり、山火事などの植物の燃焼 (Howard, 1989; Reinhardt, 1991) や水中での日光によるフミン質からの生成 (Kieber et al., 1990) が報告されている。 自然発生源の他には、自動車等の排気ガス、たばこの煙や燃料等の燃焼などによる発生があると報告されている (Environment Canada, Health Canada, 2001; IARC, 1995; IPCS, 1989,2002)。 室内における排出源については、たばこ、パーティクルボードや合板、家具や建造物が主たる排出源との報告がある (IPCS, 1989)。さらに、厚生労働省の「シックハウス (室内空気汚染) 問題に関する検討会 中間報告書 第 6 回～7 回まとめ」において、ユリア系、メラミン系、フェノール系等の接着剤からの未反応物もしくは分解物の放散を要因に、接着剤が用いられた建材、木製家具、壁紙、カーペット等をホルムアルデヒドの排出源として推定している (厚生労働省,2003)。 また、ソフトドリンク、アルコール飲料、マーマレードのような食品、それに肉、肉加工食品などにホルムアルデヒドが含まれているとの報告がある (Nijboer, 1984,1985)。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価 I における値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al) より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	33				
官報公示名称	アクリル酸n-ブチル				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	141-32-2				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	128.17	融点	℃	-64
沸点	℃	145	蒸気圧	Pa	5.2×10^2
水溶解度	mg/L	1.9×10^3	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	2.38
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	47	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	91
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	27			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	0.96	水域	日	7
土壌	日	7	底質	日	28
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	132,322	136,495	137,276	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-7						
政令名称		アクリル酸ノルマルブチル						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	-	35	28				
届出移動量	トン/年	-	239	180				
届出外排出量	トン/年	-	-	0				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	27	届出_水域	トン/年	1	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	179
推計_すそ切り	トン/年	0	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の4倍と仮定した。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第1位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	39				
官報公示名称	アクリロニトリル				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	107-13-1				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	53.06	融点	℃	-84
沸点	℃	77	蒸気圧	Pa	1.1×10^4
水溶解度	mg/L	7.4×10^4	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	0.11
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	9.6	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	10
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	3			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	8.25	水域	日	23
土壌	日	23	底質	日	92
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	635,306	725,008	603,430	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-9						
政令名称		アクリロニトリル						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	221	197	168				
届出移動量	トン/年	278	131	156				
届出外排出量	トン/年	23	20	19				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	162	届出_水域	トン/年	5	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	156
推計_すそ切り	トン/年	0	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	19
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「たばこの主流煙中に 1.14~20.3 μg/本、副流煙中に 80.0~104 μg/本が含まれていたとの分析結果が報告されている(厚生労働省, 2002)。</p> <p>また、合成樹脂中に未反応成分としてアクリロニトリルが残存モノマーとして 50~100 ppm 含まれているという報告がある(製品評価技術基盤機構, 2004)。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	45				
官報公示名称	ベンゼン				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	71-43-2				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	78.11	融点	℃	6
沸点	℃	80	蒸気圧	Pa	1.0×10 ⁴
水溶解度	mg/L	1.7×10 ³	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	2.16
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	4.3×10 ²	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	134
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	23			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	20.9	水域	日	16
土壌	日	16	底質	日	64
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	3,830,606	3,605,782	2,670,277	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-400						
政令名称		ベンゼン						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	812	845	778				
届出移動量	トン/年	872	792	648				
届出外排出量	トン/年	10,093	8,847	8,141				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	772	届出_水域	トン/年	6	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	4	届出_廃棄	トン/年	644
推計_すそ切り	トン/年	126	推計_非対象業種	トン/年	775	推計_家庭	トン/年	58
推計_移動体	トン/年	7,182						
排出等に係るその他の情報：※7 「ベンゼンは石油・天然ガス油田周辺の海水中に含まれるとの報告がある (Reynolds and Harrison,1982)。」								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の4倍と仮定した。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第1位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	48				
官報公示名称	イソプロペニルベンゼン（別名 α -メチルスチレン）				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	98-83-9				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	118.18	融点	℃	-23
沸点	℃	162	蒸気圧	Pa	2.8×10^2
水溶解度	mg/L	93	1-オクタールと水との間の分配係数 (logPow)	-	3.48
ヘンリー係数	Pa·m ³ /mol	3.5×10^2	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	1.0×10^3
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	72			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	データなし	水域	日	データなし
土壌	日	データなし	底質	日	データなし
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	43,020	45,461	39,337	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号			1-436					
政令名称			アルファーマチルスチレン					
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	30	27	26				
届出移動量	トン/年	51	36	41				
届出外排出量	トン/年	0	0	0				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	26	届出_水域	トン/年	0	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	41
推計_すそ切り	トン/年	0	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	53				
官報公示名称	p-ジクロロベンゼン				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	106-46-7				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	147	融点	℃	53
沸点	℃	174	蒸気圧	Pa	3.9×10^2
水溶解度	mg/L	65	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	3.37
ヘンリー係数	Pa·m ³ /mol	2.5×10^2	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	3.6×10^2
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	68			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	83.6	水域	日	180
土壌	日	180	底質	日	720
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	38,324	42,907	49,444	
主な用途 (上位3つ)(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-181						
政令名称		ジクロロベンゼン						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	31	95	127				
届出移動量	トン/年	127	1,106	993				
届出外排出量	トン/年	11,936	12,342	11,781				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	127	届出_水域	トン/年	1	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	8	届出_廃棄	トン/年	985
推計_すそ切り	トン/年	5	推計_非対象業種	トン/年	21	推計_家庭	トン/年	11,755
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の4倍と仮定した。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第1位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	57				
官報公示名称	o-トルイジン				
評価Ⅱの対象	人健康影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	95-53-4				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	107.16	融点	℃	-20
沸点	℃	200	蒸気圧	Pa	24
水溶解度	mg/L	1.5×10 ⁴	1-オクタールと水との間の分配係数 (logPow)	-	1.34
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	0.23	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	52
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	4			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	0.16	水域	日	7
土壌	日	7	底質	日	28
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	509	885	703	
主な用途（上位3つ）(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-299						
政令名称		トルイジン						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	1	3	5				
届出移動量	トン/年	223	370	82				
届出外排出量	トン/年	2	2	2				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	5	届出_水域	トン/年	0	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	4	届出_廃棄	トン/年	78
推計_すそ切り	トン/年	2	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「たばこの主流煙中に 0.16 μg/本、副流煙中に 3 μg/本の α-トルイジンが含まれる(健康・体づくり事業財団, 2004)。2002 年度のたばこの全国販売本数は 312,600 百万本であり(経済産業省, 環境省, 2004b)、副流煙中の α-トルイジンが全量大気へ排出されると仮定すると、1 年間に全国で約 1 トンの α-トルイジンが排出される。</p> <p>また、染料中間体原料として使用された α-トルイジンが繊維製品中に残留するという報告、また α-トルイジンの自然発生源として、紅茶、セロリやニンジンなどの一部の生鮮野菜に含まれるという報告があるが(IARC, 2000)、詳細は不明である。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	64				
官報公示名称	2,6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	128-37-0				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	220.36	融点	℃	70
沸点	℃	265	蒸気圧	Pa	1.1
水溶解度	mg/L	1.1	1-オクタノールと水との間の分配係数 (logPow)	-	5.1
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	3.1×10 ²	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	8.2×10 ³
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	1299			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	データなし	水域	日	データなし
土壌	日	データなし	底質	日	データなし
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	4,470	4,987	4,672	
主な用途 (上位3つ)(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類		詳細用途分類	
1	*	*		*	
2	*	*		*	
3	*	*		*	
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-207						
政令名称		2, 6-ジーターシャリーブチル-4-クレゾール						
届出排出量及び移動量並びに届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	-	6	10				
届出移動量	トン/年	-	43	42				
届出外排出量	トン/年	-	25	14				
届出排出量及び移動量並びに届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	9	届出_水域	トン/年	0	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	0	届出_廃棄	トン/年	42
推計_すそ切り	トン/年	10	推計_非対象業種	トン/年	3	推計_家庭	トン/年	1
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。 ※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。 ※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	71				
官報公示名称	[3-(2-エチルヘキシルオキシ)プロピルアミン]トリフェニルホウ素(111)				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS番号※2	250578-35-2				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	428.45	融点	℃	197
沸点	℃	508	蒸気圧	Pa	1.4×10^{-8}
水溶解度	mg/L	3.5×10^{-5}	1-オクタールと水との間の分配係数(logPow)	-	8.153
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	1.7×10^{-1}	有機炭素補正土壌吸着係数(Koc)	L/kg	2.1×10^5
生物蓄積係数(BCF)	L/kg	280			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	データなし	水域	日	データなし
土壌	日	データなし	底質	日	データなし
化審法届出情報(年度は実績)※4					
項目	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
製造・輸入数量	トン/年	100未満	100未満	100未満	
主な用途(上位3つ)(平成23年度実績)※5					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成23年度実績)※5					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※6								
政令番号		-						
政令名称		-						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	-	-	-				
届出移動量	トン/年	-	-	-				
届出外排出量	トン/年	-	-	-				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	-	届出_水域	トン/年	-	届出_土壌	トン/年	-
届出_埋立	トン/年	-	届出_下水	トン/年	-	届出_廃棄	トン/年	-
推計_すそ切り	トン/年	-	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
排出等に係るその他の情報：※7 調査した範囲では、排出等に係るその他の情報は入手できなかった。								
(注意) ※1 評価Ⅰにおける値であり、データの精査により今後変更の可能性がある。 ※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。 ※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。 ※4 製造・輸入数量の合計値が 100 トン/年未満の年度は、「100 未満」と表示した。 ※5 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。 ※6 関連する PRTR 対象物質に「ほう素化合物」があるが、対象としている物質の範囲が優先評価化学物質と大きく異なるため、関連づけしない。 ※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定

リスク評価（一次）評価Ⅱ対象物質の暴露情報（精査中の情報）

優先評価化学物質通し番号	75				
官報公示名称	4, 4' - (プロパン-2, 2-ジイル) ジフェノール (別名4, 4' - イソプロピリデンジフェノール又はビスフェノールA)				
評価Ⅱの対象	生態影響				
物理化学的性状と蓄積性※1					
CAS 番号※2	80-05-7				
項目	単位	値	項目	単位	値
分子量	-	228.29	融点	℃	156
沸点	℃	361	蒸気圧	Pa	3.8×10^{-6}
水溶解度	mg/L	63	1-オクタールと水との間の分配係数 (logPow)	-	3.4
ヘンリー係数	Pa*m ³ /mol	4.0×10^{-6}	有機炭素補正土壌吸着係数 (Koc)	L/kg	8.9×10^2
生物蓄積係数 (BCF)	L/kg	61			
環境媒体中での分解の半減期(機序等を区別していない(又は不明の)分解の半減期)※3					
項目	単位	値	項目	単位	値
大気	日	0.31	水域	日	160
土壌	日	180	底質	日	640
化審法届出情報(年度は実績)					
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
製造・輸入数量	トン/年	496,726	552,446	470,868	
主な用途 (上位3つ)(平成 23 年度実績)※4					
順位	用途番号 -詳細用途番号	用途分類	詳細用途分類		
1	*	*	*		
2	*	*	*		
3	*	*	*		
製造数量等の届出情報に基づく推計排出量(平成 23 年度実績)※4					
項目	単位	値	項目	単位	値
全国推計排出量	トン/年	*	大気への全国推計排出量	トン/年	*
水域への全国推計排出量	トン/年	*			

関連する PRTR 対象物質の情報※5								
政令番号		1-37						
政令名称		4, 4'-イソプロピリデンジフェノール (別名ビスフェノールA)						
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量(年度は実績)※6								
項目	単位	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度				
届出排出量	トン/年	3	19	18				
届出移動量	トン/年	116	184	168				
届出外排出量	トン/年	2	17	19				
届出排出量、届出移動量及び届出外排出量の内訳(平成 23 年度実績)※6								
項目	単位	値	項目	単位	値	項目	単位	値
届出_大気	トン/年	18	届出_水域	トン/年	0	届出_土壌	トン/年	0
届出_埋立	トン/年	0	届出_下水	トン/年	1	届出_廃棄	トン/年	168
推計_すそ切り	トン/年	19	推計_非対象業種	トン/年	-	推計_家庭	トン/年	-
推計_移動体	トン/年	-						
<p>排出等に係るその他の情報：※7</p> <p>「現在、感熱紙用途の代替化は完了しているが、深澤らにより再生紙工場からの排水中濃度が報告されており (Hitoshi Fukazawa et al., 2002)、過去に使用された感熱紙のリサイクルにより再生紙工場で処理された際の排水中、あるいは再生紙そのものにビスフェノール A が混入する可能性がある。ただし明確な関係は不明であり、定量的なデータが得られていないため考慮しない。また、ポリカーボネート樹脂、エポキシ樹脂から未反応モノマーが溶出する可能性があるが、ここでは排出源としては考慮しない。」</p>								
<p>(注意)</p> <p>※1 評価 I における値であり、データの精査により今後変更の可能性はある。</p> <p>※2 暴露評価に用いる物理化学的性状に対応する CAS 番号。</p> <p>※3 Handbook of Environmental Degradation Rates(Philip H.Howard et.al), Handbook of Physical-Chemical Properties and Environmental Fate for Organic Chemicals(Donald Mackay et.al)より情報収集。底質における半減期は、水域における半減期の 4 倍と仮定した。</p> <p>※4 秘匿情報相当の項目であり、用途等の精査で今後変更される可能性もあるため、「*」で表示した。</p> <p>※5 優先評価化学物質の構造と関連する PRTR 対象物質を挙げており、完全に一致しているわけではない。</p> <p>※6 単位をトンで表しており、小数点以下第 1 位以下は四捨五入した。</p> <p>※7 「化学物質の初期リスク評価書」から収集・抜粋した。</p>								

↓

■今後、有害性情報確定後にリスク推計を実施予定